

令和4年度 城山東小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

「人間尊重の精神」を基盤として、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、主体的に生きていくことができる心身ともに健康でたくましい人間を育成する。

具体目標（子ども像）

- 心豊かで思いやりのある子（豊かな心）
 - よく考え進んで学ぶ子（確かな学力と創造性）
 - 健康で明るい子（たくましい健やかな体力）
 - 根気強くがんばる子（あふれる気力・実践力）
- 〈スローガン〉 「ふれあい つながり 学び合う 城山東小学校」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童一人一人の能力を伸ばし未来をたくましく生き抜くための基礎となる力を培うために、保護者や地域との連携を図りながら、教職員が協働して、知・徳・体の調和のとれた教育を推進する。

（1）目指す学校像

- ・ 温かさと活気に満ちた学校
- ・ 安心・安全な学校
- ・ 地域とともにある学校

（2）目指す教職員像

- ・ 人間性豊かで信頼される教職員
- ・ 児童とともにある教職員
- ・ 学び続ける教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （1）思考力や表現力の育成のために、カリキュラム・マネジメントを進めることにより、教育活動のさらなる質の向上と教育効果の向上を目指す。
- （2）「心豊かで思いやりのある子」を育成するため、全ての教育活動を通して、生命と人権を尊重する心や他者への思いやりの心を育む道徳教育を推進する。
- （3）「よく考え進んで学ぶ子」を育成するため、学業指導を基盤に、学習意欲を高めつつ知識・技能を確実に身に付け、思考力・判断力・表現力等を育む教育活動を推進する。
- （4）「健康で明るい子」を育成するために、健康で安全な生活習慣を身に付ける指導と、体力の向上を図る教育活動を推進する。
- （5）「根気強くがんばる子」を育成するため、夢や目標に向かって希望をもち努力させる活動や、学級・学校のために協働する力を育む教育活動を推進する。
- （6）教職員が、倫理観と使命感をもち、資質・能力向上のために自己研鑽に努め、児童一人一人を大切にして教育活動を展開し、誰からも信頼を得られるように努める。
- （7）教職員が健康でやりがいをもって勤務し、質の高い教育が展開できるように、働き方改革の視点に立ち、職場環境改善の取組を推進する。
- （8）城山地域学校園と、魅力ある学校づくり地域協議会の組織を活用し、地域とともにある学校づくりを推進する。

〔城山地域学校園教育ビジョン〕ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園

「自他を尊重し、郷土に愛着をもち、諸活動を通して互いに高め合う児童生徒」の育成

《スローガン》みんなで育てよう！ 自分を愛し、仲間を愛し、地域を愛する城山の子

4 教育課程編成の方針

- （1）日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則並びに学習指導要領、県や市の教育ビジョン等を踏まえ、児童の実態や地域社会の実情に基づき、「人権教育」を基盤に特色ある教育の展開が図れるよう編成する。
- （2）知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで、心身ともに健康でたくましい児童を育むことを目指して編成する。
- （3）学習指導要領を踏まえ、教育内容の質的な充実を目指した学習指導を展開し、ICTの活用を図りながら、基礎的・基本的な内容の定着と個に応じた学習指導の充実に努める。
- （4）カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、思考力・表現力と自己有用感を高めるために、各教科・特別の教科 道徳・総合的な学習の時間・特別活動・外国語活動等の関連を図った教育活動を展開する。特に「大谷プラン」の充実を図り、人や社会と関わる力や表現力を育成する。
- （5）前年度の評価、児童の実態、社会情勢、地域社会の実情等踏まえ、教育活動に創意工夫を加えて、児童の主体的、実践的

活動を十分に生かせるように配慮するとともに、目標の重点化による教育活動の精選を行い、児童と向き合う時間や教材研究の時間を産み出し、教育の質の向上を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】
○児童と教職員が生き生きと活躍できる場とするための学校組織の構築
【学 習 指 導】
○つながりの中で、自ら考え学び合う子どもの育成
【児 童 生 徒 指 導】
○人とのかかわりを大切に、豊かな心を育てようとする子どもの育成
【健康（体力・保健・食・安全）】
○自他の生命を大切に、進んで健康・体力の向上と安全な生活を心がける子どもの育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 児 童 の 姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①発表や挙手の仕方、ノートを取り方等の「学習のきまり」を徹底し、生日に向かう環境を整えるようにする。 ②「自ら考え学び合う子」を育成するために、ICT 機器を有効に活用しながら、主体的・対話的な授業の実現に向けた取組を行う。 ③児童の学習意欲を高めるため、教材教具や指導方法について工夫・改善を行う。		【達成状況】
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①伝え合う力や自己を見つめる力を養えるよう、「考え、議論する」授業展開を工夫し、「特別の教科 道徳」の授業の充実を図る。 ②縦割り班活動や縦割り班清掃など異年齢との交流を通して、児童の思いやりの心を育む。 ③各学級の「ふれあいコーナー」などを活用し、児童が認め合うことにより、意欲を高める。 ④全教育活動を通して、人権意識の醸成を図り、児童一人一人が互いに思いやり、相手の立場に立って物事が考えられるようにする。		

A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①生活のきまり（「よい子のやくそく」）やマナーについて、児童・教職員・保護者が理解を共有し、生活当番活動等を行い、同一步調で連携して取り組む。 ②月の目標に基づき各学級で生活目標を考え、朝の会や帰りの会等で振り返る活動を継続することにより、児童の主体性を高める。	
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①継続的な指導に加え、PTA、「地域協議会」と連携し、「大人から進んであいさつする」活動を呼びかける。 ②長期休業明けに代表委員を中心に<u>したあいさつ運動</u>を実施する。 ③<u>下校時の一斉あいさつ</u>を高学年主導で行うことで、あいさつの意識付けを図る。	【達成状況】
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①キャリア・パスポート等を活用しながら、学級活動の授業等で学期の始まりに自分の目標を考えたり、終わりに自らの成長や変容を振り返る活動を実施する。 ②各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組むことの大切さに気付かせるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を賞賛する。	【達成状況】
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①交通安全教室や自転車免許事業などを通して、登下校指導体制の充実を図るとともに定期的に避難訓練を実施するなど、児童が自らの命を守り抜くための行動力を身に付けさせる。 ②学校栄養士が全校で食育指導を行うことで、児童の食への関心・意欲を高めるように努めるとともに、積極的な情報発信に努める。 ③生活目標や保健だより等で正しい姿勢や健康的な生活などについて呼びかける。 ④体力アップ集会や「体づくりカード」の活用などを通して児童の体力向上に努める。 ⑤児童に手洗いや換気など、新型コロナウイルス感染症防止のための行動力を身に付けさせる。	
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①児童が自分や他者の生き方に関心を持ち、未来を切り開いていこうとする態度を育むため、総合的な学習の時間において、キャリア教育の取組として「12歳のハローワーク」を実施する。 ②係活動や委員会活動の充実を図り、児童の自己有用感を育成する。	【達成状況】

A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①児童が英語を使って自分の気持ちや考えなどを伝えることができるよう、<u>A L T</u>を活用した授業の充実を図る。 ②児童が英語を使って簡単なコミュニケーションができるよう、給食や昼休みなどにおいてA L Tと触れ合う時間を確保する。	【達成状況】
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上	①宇都宮学副読本や社会科副読本を活用して、宇都宮の様子や産業を知る学習を通して、宇都宮の特色やよさについて理解させる。 ②生活科「町たんけん」、「大谷プラン（歩け歩け遠足）」等を通して、宇都宮の暮らしを支える人々について関心を高める。	
A 10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①情報活用能力の育成を図るため、タブレットパソコンや学校図書館を活用した授業を実施する。 ②読書に関する意識向上のための読書コーナーの設置等を計画的に行う。	【達成状況】
A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①授業や学校行事で児童に高齢者や学校支援ボランティアとかかわらせることにより、感謝の気持ちをもたせる。 ②総合的な学習の時間において、福祉教育の取組として、高齢者福祉施設の訪問などを実施する。	【達成状況】
A 12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①持続可能な社会の担い手を育むため、総合的な学習の時間において、環境教育の取組として「地球からのメッセージ」を実施する。 ②避難訓練時に、世界中で起きている地震や竜巻などの現象について触れ、防災について関心を持たせる。 ③生活科、理科で植物を育てる学習の際に意識付けを図る。 ④ゴミの分別や牛乳パックリサイクル、節電を行うことで、持続可能な社会に貢献している意識を持たせる。	【達成状況】
B 1 児童は進んで本を読んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①読書の時間や定期的なボランティアによる読み聞かせ、ビブリオバトルなどにより、読書に対する興味関心を高める。 ②市立図書館学校支援室の有効活用や、家庭と連携した家読の実践等、児童と本をつなぐ取組を推進する。	【達成状況】

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①校内支援委員会を開催し、特別な教育的支援が必要な児童についての情報共有を図り、指導方法や支援方法について検討する。 ②児童の実態に応じて、かがやきルームにおける指導の充実や、特別支援学級の児童が通常学級へ交流及び共同学習を行うなど、取組の充実を図る。 ③2週間に1回、児童に関する情報交換を行い、共通理解を図る。	【達成状況】
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 80%以上	①全職員が改訂版「本校いじめ防止対策基本方針」について共通理解を図るとともに、言葉によるいじめの未然防止の取組の充実、初期段階からの組織的な対応の徹底など、教育活動全体を通して「いじめは決して許されない」ことを指導する。 ②強化期間における取組や「いじめ〇集会」等の工夫を行うとともに、家庭・地域とより連携を深めながら指導に当たるとともに、実施前後に学年だより等で情報発信する。 ③教育相談やアンケートで実態を把握し、気になることは教職員で共有し、速やかに対応する。	【達成状況】
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①一人一人の力が生かされ、児童相互に認め合う学級経営の充実を図る。 ②「<u>城山東キラリ賞</u>」や「<u>宮っ子心の教育表彰</u>」を活用しながら、日頃から<u>全教職員による認め励ます教育を推進する。</u> ③不登校が心配される児童については、定期的に情報交換を実施し、早期対応を図る。	【達成状況】
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①外国人児童が円滑に学校に編入学し、学校生活を送ることができるよう、受け入れ体制の確立を図る。 ②必要に応じて、はばたき教室への通級や日本語指導講師等の活用等の情報収集等を行う。	【達成状況】

A 17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 80%以上	①児童同士や教師と児童の温かなつながりがあり、居がいがある学級経営を基盤として、自己有用感と自己実現の喜びを味わうことができる教育活動を実践する。 ②「東小タイム」を中心に、よりよい人間関係づくりをする。 ③縦割り班活動を推進し、児童同士の交流を深める。	
A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①日々の授業がより分かりやすくきめ細やかなものとなるよう、「宇都宮モデル」を活用して主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。 ・ <u>ねらいの明確な提示</u> ・ <u>まとめ、振り返り活動の充実</u> ・ 学習形態の工夫、個に応じた指導 ②「考えるための技法（思考のすべ）」などを活用し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ③朝の学習「ぐんぐんタイム」や家庭学習の課題の工夫などにより、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。	【達成状況】
A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 ⇒教職員 85%以上	①学校図書館司書、学校栄養職員、学力向上非常勤嘱託員、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携・協働しながら効率的・効果的に業務を進めるように努める。 ②「チーム城山東」の一員として、報告・連絡・相談を確実に実施するとともに、互いに助け合える雰囲気づくりに努める。	【達成状況】
A 20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①学校行事の後には振り返りを実施し、次回に向けて効率的な実施方法等について検討するとともに、精選及び校務の効率化により、児童と向き合う時間を確保する。 ②出退勤の時間を意識し、効率的な業務遂行に努めるとともに、リフレッシュディを確実に実施する。 ③学級支援事務と連携協働しながら、効率的、効果的に業務を進めるように努める。	【達成状況】
A 21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	①地域学校園教育ビジョンの具現化を図るため、各部会・教科部会の活動の充実を図り、園内の学校で共通した取組を実施する。 ②あいさつ運動における小中の交流を実施し、情報を発信する。 ③地域学校園内で授業を公開し、授業の充実や教職員の相互理解を図る。	【達成状況】

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①校外学習、地域とのふれあい学習、農園活動、教科等（生活科、図画工作科、家庭科、総合的な学習の時間）などにおいて、地域人材・施設・文化財を積極的に活用する。 ②給食に地域の食材を積極的に取り入れ、啓発を進める。	【達成状況】
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①地域の方々、学習ボランティアとの交流や、企業及び関係諸機関と連携した授業を、各学年とも積極的に計画し実施する。「地域協議会」の趣旨を生かしたボランティア募集やPR活動等の活性化により、協力者層の拡大に努める。 ②「地域とともにある学校」の具現化を図るため、家庭や地域と連携・協力した取組を充実させるとともに、情報を積極的に発信する。	【達成状況】
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒保護者・地域 85%以上	①児童生徒の安全な学習環境の確保を図るため、施設・設備、器具・用具などの定期的な安全点検を実施し、安全で快適な学校づくりに努める。 ②運動会や感謝の会などの学校行事の前後など、必要に応じて臨時に安全点検を実施する。	【達成状況】
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①一人一台端末操作のスキルアップを図って、有効に活用しながら、思考力・表現力の向上に努める。 ②学校図書館において、学習センター、情報センターとして、授業の目的にあった図書資料が検索できる環境を整備する。	【達成状況】
B2 学校は、校内研修やOJTによる実践的な学びを推進し、指導力の向上につなげている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①OJTによる実践的な学びを推進し、授業力の向上に努める。 ②教育専門職にふさわしい資質・能力の向上のために、校内研修の計画的な実施と自己研鑽に努める。 ③外部講師等を活用した教職員研修を実施するなど、教員の指導力の向上に努める。	【達成状況】

	B3 教職員は「予防的対応」「対処的対応」など、危機管理に努めている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒保護者・教職員 85%以上	①緊急時の対応、日常の安全管理等、危機管理についてマニュアルに基づき、教職員が緊急時すぐに対応できるようにするとともに、随時、マニュアルの点検、見直しを行う。 ②予防的対応の充実を図るため、全教職員の危機管理意識の高揚を図り、危機管理に関する情報交換を日常的に行う。 ③必要に応じて「日々の記録」に記録し、確実に引継ぎを行う。	【達成状況】
本校の特色・課題等	B4 教職員は、児童理解を基盤に学級経営の充実を図り、学級内の人間関係づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①Q-Uテスト等を有効活用し、児童理解と信頼関係に根差した居がいのある学級づくりを目指していく。 ②各学級に「ふれあいコーナー」を設置し、児童相互の認め合いの場として活用する。 ③互いに励ましあう言葉など、温かい言葉が使えるよう常時指導する。 ④児童のよさや成長など、小さな気付きを保護者に伝える。	【達成状況】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。